

この RC のプロジェクトを、更にみんなのものにするために

シヤビ・オドリオゾラ

先週、オランダで開かれたプレ会議に参加しました。ここ数年プレ会議や世界会議に何度も参加していますが、今回もこれまで同様、有意義で感動的なものでした。チームは、私たちが現実について、つまり個人や人間関係、グループ、コミュニティ、世界、宇宙について理性的に考えたり、ディスチャージするのに役立つ理論や考えを示してくれました。ダイアン・シスクも参加し、チームや会議全体をサポートし、みんなが、こうした理論や考えをよりよく理解できるようにしてくれました。今回のプレ会議によって、ヨーロッパのコミュニティ同士がさらに結びつきを深められたと感じ、感謝しています。

大切な RC のプロジェクトを推し進めるために、いつかのことを、みんなとシェアしたいと思います。こうしてみんなに伝えることで、プロジェクトをもっと進めていけると確信しています。

私はバスク人で、母国語は少数民族の言葉です。そのため、今回のプレ会議でも今まで出席した会議同様、セッションの時間のほとんどを言葉やコミュニケーションについての抑圧をディスチャージするために使わなければなりませんでした。そして最後の日には、このテーマについて取り組んできた成果に、はっきり気付きました。

通訳を必要としない人たち（つまり、英語が母国語である人たち）は、通訳について、それを必要とする人たちが自分たちで考えて準備し、対処することだと考えることがあります。英語を話さない人たちが埋めなければいけない穴であり、その人たちに欠けていて直さないといけないことだと考えることがあるのです。こうした考え方では、英語を母国語とする人たちは、再生を後押しする RC のプロジェクトをみんなに行き渡らせるようにする取り組みに、十分に関われなくなってしまいます。

通訳を必要とする人たちは、時々、教養や能力が欠けているように思われてしまいます。通訳をしてもらうグループは、通訳を必要としないグループと同等のレベルになるため、ある水準の教養や意思の疎通を満たす必要があると見なされることがあります。（通訳を必要とするグループは、ワーキングクラスであることが多いです。それはワーキングクラスの人たちが、読んだり書いたりすることへの支援を得る機会が限られているためです。）そのため、通訳を必要としない英語を母国語とする人たちが、通訳を必要とするグループが自分たちと同等のレベルに到達するまで“待っている”ことがあります。このよう

な考え方では、通訳を必要とする人たちがもうすでにコミュニティの完全な一員であり、同等のレベルにいるのだということを理解することができません。そのため英語を母国語とする人たちは、通訳を必要とする人たちについて十分考える機会を得られないし、RCの資源をみんなが手に入れられるようにするための仕事はみんなの責任であり、みんながリーダーシップを取るべき仕事だと気付く機会も得られません。

会議やトピックグループや、特にディスチャージするセッションでは、英語を母国語としない私たちは、自分たちの言葉（バスク語）でディスチャージしたいと思っています。それによって私たちの本当のあり方や、感じていることとつながることがもっと楽になります。カウンセラーに細かく説明しなくてももうまくディスチャージできるし、相手の言葉が分からなくても上手に聞くことはできます。ただし、カウンセラーのコントラディクションや方向性といった情報を得るため——つまり、傷をディスチャージするのに最大限の資源を得るため——カウンセラーが私たちの言っていることを理解しないといけない時もあります。カウンセラーがバスク語を話せない場合、最大限の資源を得るために、私たちの母国語でない英語でディスチャージする努力をしなければなりません。一方、私たちが既に英語を理解する努力をしているので、英語を母国語とする人たちは英語以外の言語でディスチャージする努力をしなければならないことが滅多にありません。

そしてリーダーが冗談を言う時、私たちはもっと努力しなければなりません。英語が分かる人たちは、すぐに笑い、楽しみ、もっとリラックスしてお互いにつながる機会になりますが、通訳する人や英語が分からない人たちは、その冗談の通訳が済むまで笑うことができません。特に通訳する人は冗談を訳してから、次の理論についての話を聞いて適切な訳を考えないといけないので笑ってなどられません。しかも、みんなが笑っていて理論の話が聞き取りにくいことがよくあります。こうして、笑い、リラックスし、みんなとつながる機会を逃してしまい、孤立感を感じることもあります。

英語を母国語とする人が、通訳する人に注目をあげるという方法が、今回のプレ会議で役に立ちました。しかし、通訳以外のほとんどの係りの人の名前が壁に貼った紙に書いてありましたが、通訳に注目をあげる人の名前は、どこにも書いてありませんでした。そのためサポートが必要な時、私たちは自分たちで助けや注目を頼まなければなりませんでした。このことは、言葉の抑圧に対する認識の低さや、英語を母国語とする人とそうでない人が一緒に考えて取り組む必要があることを示しています。

今回、障害者は自分の椅子、マットや座布団を持って来ていました（これに関しては毎年だんだん上手になっていると思います）。しかし、私たち5人のバスク人は、ディスチャージして前の席に行くまで一番後ろに立っていました。

これから書くのは、みんなが言葉の抑圧に気付くために、そして私自身がディスチャージするために考え出した方法です。

ハーヴィーやティムがバスク語で私と話しているところを想像します（そうすると、かなり泣けます）。これをやってみたいと思ったら、バスク語の代わりに自分の母国語を入れてみてください。英語を母国語とする人は、自分がバスク語で話すことになった場合を想像してください。（ハーヴィーは、“時間があるときバスク語を勉強するね”と私に言ってくれたことがあります。その言葉を思い出して、どんなに泣いたことか！）つまり、あなたが私の言葉を勉強しないといけないというわけですが、そんなことは実際にはありません。みんなが RC のプロジェクトや資源をもっと簡単に入手できるようにし、一部の人に資源が不足しているのは抑圧のせいだけであると理解することは、すべての RCer の責任だと私は思います。

大好きなティムは、植物や鳥やその他の生き物がそばにいと、環境やそれに関連する傷を意識しやすいと言ったことを思い出します。同じように、一つの言語しか話せない場合は、別の言語を勉強してみることが役に立つでしょう。この新しい言語でクライアントを試してみたり、カウンセラーに自分との共通語ではない言葉（彼又は彼女の母国語）で話してもらい、何も理解できないことや、ディスチャージがしにくくなることについてディスチャージしてみるといいでしょう。

言葉についてのもみんなの考え、意見、取り組みを教えてください、私たちみんなが、このすばらしいプロジェクトの資源をさらに分かち合えることを楽しみにしています。Dank u wel.（オランダ語で「本当にどうもありがとう」）この小さな国とすばらしい住民からの大きなハグを送ります。

One more step towards making this RC project all of ours

プレゼントタイム 2005 年 10 月号 31 - 32 ページより

Xabi Odriozola

訳：エマ・パーカー、福元実津代

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳2007年。原文2005年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。